

長野工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)	授業科目	材料強度学特論	
科目基礎情報						
科目番号	0020		科目区分	専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	生産環境システム専攻		対象学年	専1		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	教科書:黒木 剛司郎 他「金属の強度と破壊」第2版[POD版], 森北出版参考書:加藤 雅治 他「材料強度学」, 朝倉書店配布プリント					
担当教員	長坂 明彦					
到達目標						
先端機械加工部品の金属材料を対象として, その金属材料の強度と破壊のメカニズムが説明できること. また, 材料強度の応用について説明できること. これらの内容を満足することを, 達成度評価等 (80%), レポート等 (20%) により学習・教育目標の(D-1), (D-2)として評価する.						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
強度について	強度の応用問題ができる.		強度について説明ができる.		強度について説明ができない.	
破壊について	破壊の応用問題ができる.		破壊について説明ができる.		破壊について説明ができない.	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	機械や構造物が故障することなく使用されるために行う健全性評価にとって, 材料強度学は不可欠である. 本科目では, 機械加工後の金属材料を対象に, 材料の変形や破壊のメカニズムについて学習する.					
授業の進め方・方法	授業方法は講義を中心とする. なお, この科目は学修単位科目であり, 授業時間30時間に加えて, 自学自習時間60時間が必要である. 事前・事後学習として課題等を与える.					
注意点	<成績評価>達成度評価等 (80%) およびレポート等 (20%) の合計100点満点で(D-1)および(D-2)を評価し, 合計の6割以上を獲得した者をこの科目の合格とする. <オフィスアワー>水曜日の16:00~17:00, 機械工学科棟1F 長坂教員室. ただし, 出張等で不在の場合がある. <先修科目・後修科目>先修科目・後修科目はおかない. <備考>機械工作学, 材料学および材料力学が理解できていることが重要である. 各回の講義内容を整理・復習し, 理解を確実にすることが大切である.					
授業の属性・履修上の区分						
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング		<input type="checkbox"/> ICT 利用		<input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業対応		<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	フラクトグラフィ	フラクトグラフィを説明できる.		
		2週	フラクトグラフィ	フラクトグラフィを説明できる.		
		3週	定応力疲労	定応力疲労を説明できる.		
		4週	定応力疲労	定応力疲労を説明できる.		
		5週	定ひずみ疲労	定ひずみ疲労を説明できる.		
		6週	定ひずみ疲労	定ひずみ疲労を説明できる.		
		7週	き裂先端の応力場と破壊じん性	き裂先端の応力場と破壊じん性を説明できる.		
		8週	達成度評価			
	2ndQ	9週	疲労き裂の発生・成長	疲労き裂の発生・成長を説明できる.		
		10週	疲労き裂の発生・成長	疲労き裂の発生・成長を説明できる.		
		11週	破壊力学と破壊現象	破壊力学と破壊現象を説明できる.		
		12週	破壊力学と破壊現象	破壊力学と破壊現象を説明できる.		
		13週	クリープとクリープ破断	クリープとクリープ破断を説明できる.		
		14週	金属の強化メカニズム	金属の強化メカニズムを説明できる.		
		15週	金属の強化メカニズム	金属の強化メカニズムを説明できる.		
		16週	達成度評価			
評価割合						
	試験	小テスト	平常点	レポート	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	100
配点	80	0	0	20	0	100